

印刷前から製品在庫まで「保管」のポイント 水ぬれ・湿気・乾燥は... 感圧紙 の大敵です

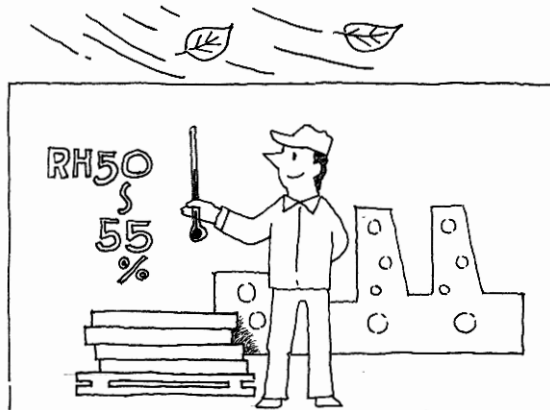
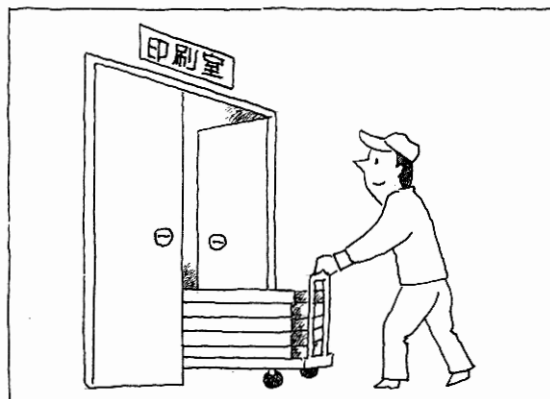
春夏秋冬...私たちの日本ほど、四季に恵まれた国は世界でも稀だといわれます。しかし、感圧紙 にとっては、四季それぞれが恵まれた環境とはいえません。高温多湿の夏、乾燥の激しい冬、そして梅雨期や長雨...と、感圧紙 にとっては、ニガテなシーズンが繰返しやっています。

そのため、富士フィルムの技術スタッフには「冬場の乾燥にはどんな対策が必要か?」「製品で在庫する適正期間は?」といった“保管”についてのご質問が数多く寄せられます。そこで、ここでは、雨・湿気・乾燥などについて印刷前から製品在庫までの対策を、Q & Aの形式でご紹介いたします。

乾燥が激しい冬場のご注意。 理想は湿度50~55%...

Q1 空気が乾燥している冬場なのに、紙が伸びてピッチが合わないというトラブルがありました。触ってみると、ジットリと湿っており、びっくり。原因と対策を教えてください

A 印刷直前に冷えきった倉庫から、紙を運び込んだために起こったトラブルだと思います。寒い戸外から暖房のきいた部屋に入ると、メガネがくもりませんが、それと同じ現象（結露）です。極寒の北海道などでは、手で触っても分かるほど、ベタリと水滴がつくことがあるほどだということです。これを防ぐには、“用紙は、印刷する前日に、印刷室へ搬入しておくこと”が肝要です。室温になじませてから、印刷する...ということです。これは残紙の扱いでも同じです。一方、湿度が低すぎると、紙が乾燥して縮み、ピッチが合わない...という場合があります。また、静電気も起きます。これを防止するには、加湿器やヤカンでお湯をわかすなど...湿度調節をしてください。また、床に



水をまくのも効果的です。逆に梅雨時や夏場などの多湿期には、クーラーや除湿機で除湿してください。印刷室やコレート室の理想的な湿度は、RH50~55%と覚えておいてください。

Q2 ロットの小さな仕事で残紙を使うとき、新品と違って、ちょっと不安になることがあります。残紙の保存・管理には、どんな点に気をつけたらいいのでしょうか。

A 紙は、湿度・温度に敏感に反応します。残紙の保管でもっとも基本となるのは、新品のときと同様

に合紙や段ボールを当てて、包装紙（ラミネート紙）か、ポリエチレンシートで包み直すこと（その際に、上・中・下用紙の区分を明記しておくことで使うときに間違いがおきません）。工場や倉庫に放置しておく、伸縮・ピッチ不良の原因になります。ロールの場合、梅雨時のような湿度の高い時期に放置すると、鏡面の部分が湿度のためにくっついて、はがれにくくなり、紙切れの原因になることもあります。ご注意ください。

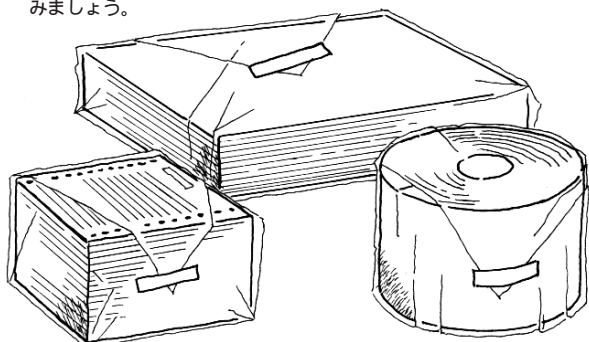
印刷から丁合い・コレートまで 上・中・下用紙は同じ条件に...

Q3 印刷から丁合い・コレートまでの間では、どんな注意が必要でしょうか。

A 寸法精度を狂わせないためには、ポリエチレンシートで包んで一時保管してください。しかも、上・中・下用紙ともに同じ場所（条件）に置くこと。感圧紙は、上・中・下用紙とも同じ伸縮率をもつよう品質設計されているため、湿度が異なる場所に置くと紙の寸法差が発生してしまうからです。また湿度50～55%で伸縮しない設計でもありますので、空調できる部屋では、その数値で保管していただくのが理想的です。また、減感印刷物をパレット積みで一時保管する場合、2段積みを限度としてください。減感インキの転写汚れが発生し、発色させたときに文字がうすくなったり、発色しなくなるケースがあります。またロールツーロールで印刷したロールを保管する場合は、クッション材を巻き、その上をビニールで包んでください。ロールのタワラ積みは厳禁。無用の発色・紙管ツブレ・歪みなどの原因になります。さらに印刷からコレートまでの期間は、できるだけ短時間で実施してください。長く保管すると発色汚れの原因となります。

感圧紙 はハダカのまま放置しないで！

製品も残紙も、工程途中も...包装紙がポリエチレンシートで包みましょう。

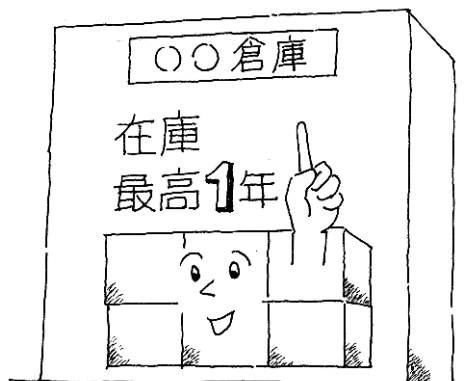


製品在庫は最高1年を限度に！

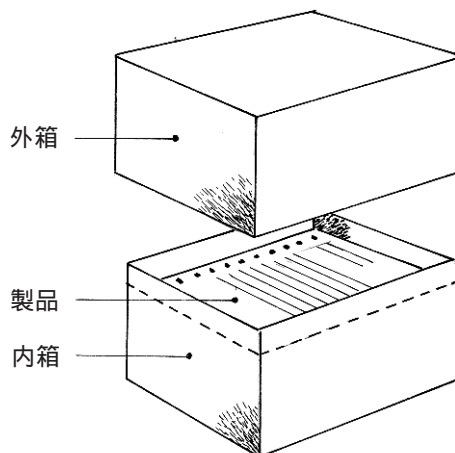
Q4 お客様からの依頼で帳票の在庫管理を行っております。一度に印刷しておくロットの適正量や保管上の注意について教えてください。

A 経済性や効率の面から一度に大量に印刷しておき、毎月ないし数ヵ月ごとに納品していく...というケースは少なくありません。この場合の注意点は2つ。

製品（印刷物）としての保管期間は、半年を目安として最高1年を限度として考えてください。保管しておく倉庫の条件にもよりますが、高温多湿な夏場を2度迎えることは避けたいものです。印圧が高かったり、荷重がかかったために、カプセルにヒビが入ったりすると、温度・湿度によってそれが促進され、発色剤がしみ出し、無用の発色の原因になるからです。



内箱・外箱（フタ）に分かれた形態の箱の場合、内箱からはみ出すほど詰め込まないこと。2段3段に積んだとき、荷重がかかって発色汚れが出るおそれがあります。製品とフタの間には多少空間が必要です。



製品は内箱の高さより低く。
外箱の荷重がかからないように空間を設ける。

輸送中の雨にご注意!

Q5 トラック輸送やフォークリフトなどでの運搬には、どんな点を注意したらいいのでしょうか。

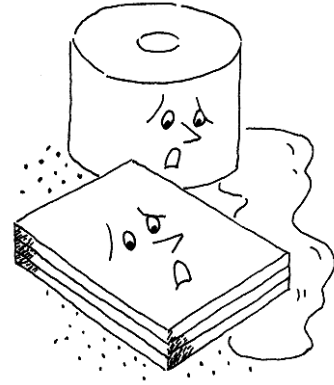
A 感圧紙 は、水ぬれ・湿気をきらいませす。新品であれ印刷後であれ、トラックなどでの輸送時には、完全にシートで覆ってください。天気の日も、にわか雨に油断せず、常にシートは準備しておきたいものです。また、倉庫から印刷室までの運搬にも、雨の日は完全にシートで覆うなど、決して雨にぬらさないでください。



床へのジカ置きは避ける!

Q6 印刷の前後にはどんな注意が必要ですか。包装紙に包んであれば、問題はないように思えますが...

A 印刷や丁合いの前後、包装紙から出したハダカの感圧紙 には、置く場所や周辺にはとくにご注意ください。水にぬらしたり、床にジカ置きすると、水や湿気による影響で、トラブルの原因になります。また、包装紙のままの場合でも水がかからないようにしたいものです。感圧紙 の包装紙はラミネート加工されており、湿気程度なら問題はありません。ただし、折り返し部分に水が溜まったりした場合、そこから水が侵入するおそれがあります。雨などにぬらさない注意が必要です。



トラック輸送から工場での取り扱いまで... 「運搬」のご注意のポイント

感圧紙 の包装は厳重ですが、運搬にあたっては丁寧に扱って、部分的に強い圧力が加わらないようにご注意ください。

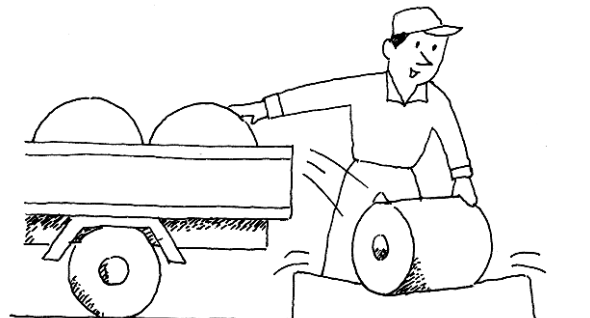
積上げは中・上・下の順で。

シートものを積上げる時は、一番下に下用紙(C紙)がくるように、上から中用紙(B紙)、上用紙(A紙)、下用紙(C紙)の順に重ねてください。



落下は厳禁。

どうしても落下させなくてはならないときは、厚めのマット(タイヤは不可)などを敷いて平行に胴面落下させてください(角落下は厳禁です)。



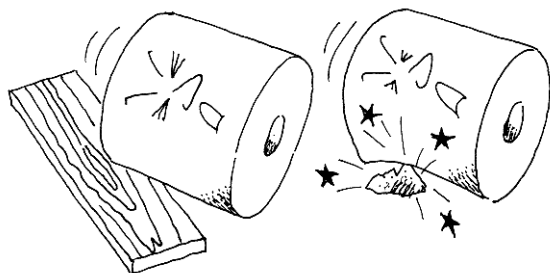
角を当てないように。

固いものの上で角を当てると、発色したりキズになります。静かに、平らに置いてください。



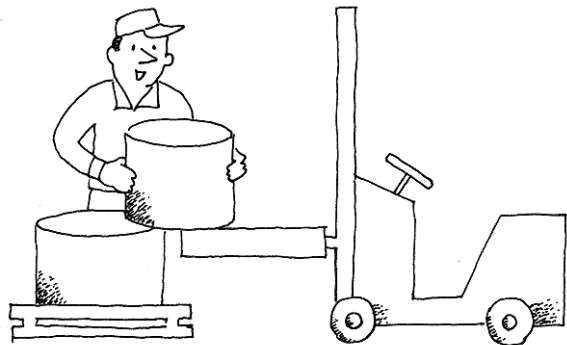
出っ張りには気をつけてください。

コロガシはレーベルの矢印方向に。小石や板切れ、レールなどに乗せると、発色したりキズになります。箱入り品は、箱から出しても、ころがさないでください。



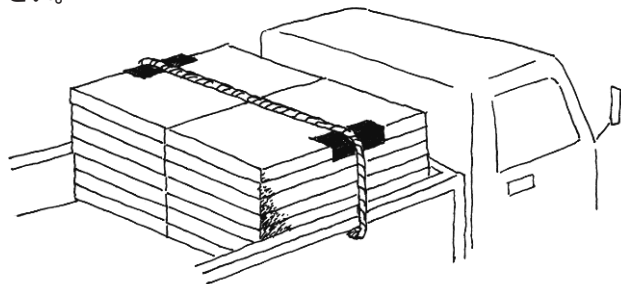
パレットからパレットへの移し替えにご注意を...

パレットを、フォークリフトでロールの高さに上げ、ずらすようにして移し替えてください。



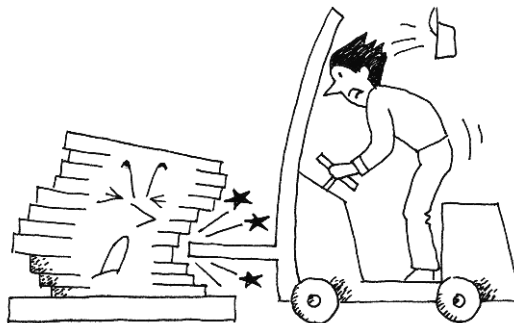
縄掛けは当て木をして。

縄掛け、バンド掛けは、必ず当て木をして行なってください。



フォークを当てるのは厳禁です。

フォークリフトの爪や本体がぶつかると、発色やキズになります。運転には細心の注意をはらってください。



 FUJIFILM

富士写真フイルム株式会社

東京本社	情報システム部 / 〒106-8620 東京都港区西麻布2-26-30	TEL (03)3406-2301
大阪支社	情報システム課 / 〒541-0051 大阪市中央区備後町3-5-11	TEL (06)6205-6553
札幌営業所	販売第二課 / 〒060-0002 札幌市中央区北2条西4-2 札幌三井ビル別館3F	TEL (011)241-7168
仙台営業所	販売第二課 / 〒980-0811 仙台市青葉区一番町4-6-1 仙台第一生命タワービル7F	TEL (022)265-2122
名古屋営業所	販売第二課 / 〒460-0008 名古屋市中区栄2-10-19 名古屋商工会議所ビル11F	TEL (052)203-5272
広島営業所	販売第二課 / 〒732-0816 広島市南区比治山本町16-35 広島産業文化センター11F	TEL (082)256-3411
福岡営業所	販売第二課 / 〒812-0018 福岡市博多区住吉3-1-1 富士フイルム福岡ビル	TEL (092)281-0261